2026 年度　千葉市 U-9 サッカー大会

決勝戦評

日時：2026 年 6 月 28 日　　試合会場：フクダ電子スクエア

気象状況：曇り時々雨　　ピッチ状況：人口芝

キックオフ：10 時 45 分

対戦チーム　　**ジェフユナイテッド市原・千葉コラソン　―　長作 FC**

試合結果

1	1	前半	1	2
	0	後半	1	

選評

2026 年度 U-9 決勝は、ジェフユナイテッド市原・千葉コラソン（以下「コラソン」）と長作 FC（以下「長作」）との戦いになった。グランドコンディションは試合前までに降った降雨の影響でボールが滑りやすくコントロールが難しい状況でのゲームになった。基本的なフォーメーションは、コラソンが 1-2-3-2、長作が 1-3-3-1 でコラソンのキックオフで試合が始まった。

試合開始早々から両チームともに激しいボールの奪い合いとなった。先にチャンスを作ったのは長作。コラソンがセンターサークルあたりでボールを奪い、前線に侵入しようとしたボールを長作 13 番が前線のスペースにパス。これを長作 2 番が縦に抜け出すもコラソン８番が後方から必死に戻り身体を当てて守り切った。３分には、長作がフリーキックを獲得し、やや遠目ではあったものの、これを７番が直接狙うも枠を捉えきれない。さらに長作は中盤の攻防から左サイドに抜け出した 13 番がボールを保持し、ペナルティエリア内の味方へのパスを狙うもコラソン 16 番がインターセプトし、逆に左サイドを走る５番に繋ごうとするも繋がらない。コラソン 16 番は、守備時のステップワーク、守備から攻撃の切り替えにおいて素早く相手の嫌なエリアを観つけてチャレンジする良いプレーだった。

コラソンはここまで守備の意識が高く、相手よりも先にボールを触る、ボールを奪う意識が非常に高く、やや優勢にゲームを進める。６分にはゴールキーパーからのパントキックをコラソン 27 番がカットし、やや遠目ではあったものの、ロングシュートを放つ等、ボールを奪う、ゴールを奪うというサッカーの目的を意識したプレーが随所に見られた。また、ボールを奪われた瞬間に素早くボールを奪いに行っており、長作の選手も高いテクニックを発揮していたものの自由にプレーをさせない時間帯が続いた。８分にはコラソン 29 番が左サイドを突破し、コーナーキックを獲得する。このコーナーキックは長作もゴールを決めさせまいと先にボールに触りクリアする。こぼれ球をいち早く反応した８番にシュートを打たれるも、これも GK が防ぐ。10 分には後方からボールを奪った 35 番が中央からボールを運び長作の選手を抜き、ペナルティエリア内に侵入するも長作 13 番が後方からプレスバッ

クし、抜かれた選手も直ぐにボールを奪いにいき粘り強い守備からゴールを割らせない。コラソンに負けじと長作も守備に対する意識が非常に高く、コラソンに決定機を作らせない。

すると 12 分に長作は右側コーナー辺りからのスローインをペナルティエリア内に入れるとコラソンの選手のクリアが小さくなり、これを 13 番がコントロールしボールが浮いた状態から素晴らしいシュートを打ち、長作が先制に成功した。13 番のコントロールからシュートまでの一連の流れは非常に質の高いプレーだった。ゴールキーパーも高めのコースに打たれたシュートに必死に反応しボールに触れるも惜しくも防ぐことは出来なかった。

しかし、コラソンも諦めない。前線からの守備の強度を強め、29 番がボールをカットしドリブルを仕掛けてペナルティエリア近くでフリーキックを獲得。これを直接狙い GK が弾いたボールを更にコラソンがシュート。このシュートもポストに当たってしまったものの最後は５番が押し込み、同点に追いついた。ゴール前の攻防で何としても決めるという気持ちの伝わった良いプレーだった。

その後は一進一退の攻防が続き、前半は１対１で終了した。両チームとも球際が厳しく、攻守の切り替えの早い試合展開を繰り広げる見応えのある展開となった。

後半は長作ボールでキックオフ。後半開始早々から前半同様に球際の厳しい攻防が繰り広げられる。コラソンは、開始１分　中盤の攻防から８番がこぼれ球をダイレクトで背後にパスするがこれは惜しくもオフサイド。攻撃の目的はゴールを奪うことであり、パスの優先順位を意識した良いプレーだった。対する長作は GK から右サイドのエリアでサポートした７番、13 番とボール繋ぎ、最後は斜めに走りこんだ２番が右サイドで受け突破しようとするもコラソン 16 番がボールと相手の間に身体を入れクリアをする。長作２番は攻撃の優先順位を意識した好プレーであり、コラソン 16 番もアプローチをした上でディレィしながらボールを奪うチャンスを逃さずに身体を入れており、両選手ともに質の高いプレーを見せてくれた。

４分には右前方エリアからのスローインを長作２番がキープし、ファールからペナルティエリア付近でのフリーキックを獲得する。これを７番が直接ゴールを狙うも惜しくもゴールの枠を外れる。６分にはコラソンがハーフウェイ辺りで獲得したフリーキックをペナルティエリア内の５番に供給し５番がこれをダイレクトで 29 番に落とし、決定機を迎えるも惜しくもオフサイドとなる。

その後も双方激しい攻防が続く。ボール保持者に対して必ずファースト DF が素早くアプローチをかけ、ルーズボールに対しても双方ボールにアタックするため、双方自由にプレーが出来ず、見応えのある一進一退の攻防が続いた。

10 分には、コラソンが相手陣内に押し込むも長作がボールをクリアし逆に前線の２番に繋がり、突破を試みる。しかし、コラソンも 16 番がアプローチをかけ、８番がカバーリングをすることでボールをクリアする。長作は、11 分、右サイド前方のスローインからゴール前にボールを供給し、これがコラソンのオウンゴールを誘いゴールにボールが吸い込ま

れる。長作は、念願の勝ち越しゴールを奪うことに成功した。対するコラソンも諦めない。中央でボールを受けた５番が突破を試みてコーナーキックを獲得する。１度目のコーナーキックはコラソンがゴール前に供給するも長作がクリアし、再びコーナーキックが続く。２度目のコーナーキックは直接ゴール前に供給せず、コーナー近くの 16 番にショートパスを出し、ボールを受けた 16 番が絶好のクロスを上げるも惜しくもタイミングが合わせられずゴールキックになる。

その後も一進一退の攻防が続くも長作が集中を切らさず守り切って試合終了となった。

両チームともに質高いプレーを見せてくれた非常にレベルの高い好ゲームとなった。

両チームともにボール保持者に対するアプローチが非常に早く、ステップワークを含めて粘り強く、強度の高い守備をしていた。加えて、セカンド DF がカバーリングをすることで自由にプレーをさせなかった。世界で戦う個を育てるためにも引き続き普段の練習から球際に拘ってプレーをして欲しい。

また、攻撃から守備の切り替えも非常に早く失った瞬間から守備を初めていることで攻撃側に自由にプレーをさせなかった。逆に守備から攻撃の場面においても攻撃の優先順位を意識したプレーが随所に見られた。

テクニックの部分でもアウトサイドを上手く使うことでボールを失わないようにしており、質高くプレーが出来ていた。また、実行の前段階であるオフの状態で良く味方の状況や相手の状況、スペース等を観ていると感じた。良く首を振って周囲の状況を把握しようとしている選手が多くいた。

ピッチコンディションが悪い状況ではあったが、両チームともに素晴らしいプレーを見せてくれたと感じた。引き続きサッカーをより一層楽しみ、そして一層精進することで千葉県大会でのより一層の素晴らしいプレーを見せてくれることを期待する。

緑区サッカー協会４種委員会技術部　金井拓也